引　用　文　献

アレント，ハンナ．1994.『人間の条件』志水速雄訳，筑摩書房.

大倉祐二．2010.「放置された不安定就労の拡大とホームレス問題―寄せ場の日雇労働者を野宿生活に追い込んだ要因」青木秀男編『ホームレス・スタディーズ―排除と包摂のリアリティ』ミネルヴァ書房，136–159.

オルデンバーグ，レイ．2013.『サードプレイス―コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』忠平美幸訳，みすず書房.

大橋　薫．1961.「釜ヶ崎の沿革と地域構成」『ソシオロジ』8(3): 5–11.

関根康正．2018.「下からの創発的連結としての歩道寺院―インドの路上でネオリベラリズムを生き抜く」関根康正編『ストリート人類学―方法と理論の実践的展開』風響社，319–362.

原口　剛．2010.「寄せ場『釜ヶ崎』の生産過程にみる空間の政治―『場所の構築』と『制度的実践』の視点から」青木秀男編『ホームレス・スタディーズ―排除と包摂のリアリティ』ミネルヴァ書房，63–106.

「生まれ」によって奪われゆく子どもたちの夢

―埼玉県の在日クルド人コミュニティへのフィールド調査より―

赤　坂　知　美*

夢をもつということは，将来に対して希望を抱き，今を生きる原動力となる行為だろう．特に子どもの頃は，得意なことや褒められたことをきっかけに，大きな夢をもつことも多いのではないだろうか．後に，さまざまな人々と出会っていく中で，自分が井の中の蛙だったと気づかされることも多々あるが．

恥ずかしながら，私の小・中学生の頃のアルバムを見返すと，将来の夢として「小説家」と書かれている．学校の先生や両親に作文を褒められたこと，そして読書が好きだったことが，小説家を目指すきっかけだった．その夢は，文才あふれる同級生や後輩との出会いや，小説コンクールに応募して落選が続く中で変化していったが，アルバムにその夢を書いた当時は，努力すれば小説家でも総理大臣でもロックスターでもなんでもなれる，つまり可能性は無限大だと思っていた．

夢をもつことは自由だ．しかしそんな幼心に夢を思い描くことができない子どもたちに，国内フィールド調査で出会った．

「ワラビスタン」フィールド調査

2021年7月から8月にかけて約2週間，

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

埼玉県にある「ワラビスタン」に訪れた．日本には約 2,000 人のクルド人が存在するといわれているが，そのうち 1,200〜1,300 人が埼玉県川口市や蕨市に住んでおり，そのコミュニティは，蕨市とクルディスタンを掛け合わせて「ワラビスタン」と呼ばれている［日経ビジネス 2016］．

トルコ国籍のクルド人の移住は 1990 年代前半から始まる［西中 2006: 9］．この時期は，それまで日本の産業部門を支えてきた農業部門からの流入者や一時的な出稼ぎ労働者が枯渇し［上林 2015: 225］，来日する外国人労働者が本格的に増え始めた時期と一致している．日本の労働力不足を背景に，クルド人男性のほとんどは建物の解体作業という肉体労働に従事している．しかし出会ったクルド人になぜ日本に来たのか理由を聞くと，故郷で迫害されて身の危険を感じたため，自由と安全がほしかったため，もしくは賃金稼ぎのためのいずれかだった．外国人労働者としてだけでなく，難民としての側面も強いことが，上述した来日理由からわかるだろう．

写真 1　在日クルド人家庭訪問時

そのため，来日後に難民申請を行なうクルド人も多い．しかし，蕨市の在日クルド人支援団体「クルドを知る会」によると，トルコ国籍保持者の難民認定率は本稿を書いている 2021 年 10 月時点でもゼロである．日本におけるクルド人の在留ステータスは，①日本人と結婚して配偶者ビザをもつ者，②在留特別許可をもつ者，③仮放免のいずれかだ．日本への長期滞在許可を取得しないまま入国し，オーバーステイ状態で非正規に滞在し続けるクルド人も多い中，生まれたクルド人の子どもには無国籍の者もいるという．

日本語教室で出会った子どもたち

在日クルド人支援団体「クルドを知る会」は，個別の家庭訪問に加えて，日本語教室を毎週日曜日に行なっている．在日クルド人が日本にやってきた時期はさまざまだ．10 年以上日本に居住している者もいれば，昨年やってきた人もいる．居住歴の長短にかかわらず，その多くは日本語の読み書きができず，話すことさえ苦手な者も多い．日本に 10 年以上いるにもかかわらず，ひらがな・カタカナでさえ読めないことも珍しくない．また，特に女性に，簡単な挨拶以外，日本語をしゃべることができない人が多い．男性の場合，解体作業を通じて日本人と関わるとはいえ，現場では日本語を読み書きする能力が向上する機会はなく，肉体労働のみを求められる．また，女性の場合は，家事・育児で家から出ることがほとんどなく，外国人への偏見や差別もあって地域のコミュニティに参入することができないため，日本語を話す機会が

ない．一方で，子どもたちは日本の学校に通うため，両親より巧みに日本語を操る．そのため，私がインタビューする時などは，主に子どもたちが通訳をしてくれた．

日本語教室における参与観察では，私はクルド人の両親にひらがなとカタカナを教えながら，手が空いた時に子どもたちに日々の学校の様子を尋ね，夏休みの宿題を一緒に解くなどした．ボランティアスタッフの中で，子どもたちの年齢と最も近い私は，学校でのムカつく話，友人関係や恋愛の話などで盛り上がった．「私もこんな時があったな」と少し懐かしくなりながら話す中で，驚いたのは子どもたちの多くが夢をもっていないことだった．いや，「もつことができない」という表現の方が正しいのかもしれない．

サッカーが得意なS君に将来の夢を聞くと以下のような答えが返ってきた．

「将来の夢はあるの？」

「うーん…．べつに…．」

「でも，サッカー好きなんでしょう？」

「サッカー選手になれればいいけれど，将来どうなるかわからないから．」

子どもたちには，サッカー，陸上などのスポーツや，勉強など，得意なこと，好きなことはある．しかし，両親のいずれかが日本人でない限り，彼ら・彼女らが日本に無期限の滞在ができる在留ステータスを得ることはできない．現状は「家族滞在」として日本に滞在しているが，子どもたちの両親が在留許可を得ていたとしても，6ヵ月ないし1年ごとに更新が必要な「特定活動」もしくは「特定技能」の資格であり，半年後や数年後，日本にいるかどうかわからないのだ．特に，仮放免中もしくは入国管理局に収容されている家族をもつ者の中には精神的不安が大きく，学校でのいじめも重なって不登校になった者もいた．

写真2 「クルドを知る会」日本語教室ボランティア時の様子

重なるブルネイの無国籍者

子どもたちの話を聞く中で，3年前にブルネイ留学中に出会った無国籍の友人を思い出した．ブルネイ国籍を保持するのは，国家が定義する7つの民族を包摂した「マレー人」であり，血統主義的な国籍法が採用されている［Brunei Nationality Act 1961］．そのため，ブルネイで生まれながら7つの民族以外の人々の中には，無国籍となってしまった者たちが現在もなお存在している．

そのうちのひとりである私の友人は，日本が大好きで，日本への留学を夢見ていた．しかし，「無国籍」というステータスゆえに海外への長期滞在を許可されず，奨学金を得る

こともできなかった．日本への留学も，日本で働くという夢も，あきらめざるを得なかったと残念そうに話してくれた．ブルネイの無国籍者たちの様子が，クルドの子どもたちと重なった．

法的保護外の子どもたち

「国民―領土―国家」を三位一体とする国民国家から放逐された無国籍者，難民について「人権のアポリア（行き詰まり）」と述べたのはアーレント［アーレント 2017: 303–328］だが，諸権利が与えられずに法的保護外の「剥き出しの生」に置かれた人々の中でも，最も強くその影響を受けるのは幼い子どもたちではないか．

どの国に，どの民族に，どの国籍をもって生まれるかによって，子どもたちの将来を決めてしまっていいのか．生まれによって規定された「在留資格」や「国籍」によって，将来の可能性が狭められてしまう様は，ブルネイだけではなく日本においても存在した．子どもたちの幼心に夢さえもつことができない環境下で，生きる意味や希望を見出すことができるのか．彼ら・彼女らの将来を思うと，胸が締め付けられる．

引　用　文　献

アーレント，ハンナ．2017.『新版　全体主義の起源 2―帝国主義』大島通義・大島かおり訳，みすず書房．

上林千恵子．2015.『外国人労働者受け入れと日本社会』東京大学出版会．

西中誠一郎．2006.「いまだ悪夢から覚めることができない―新しい難民認定制度と難民申請者の現在」『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報 2006』: 9–15.

日経ビジネス．2016.「なぜ埼玉県南部にクルド人が集まるのか？」<https://business.nikkei.com/atcl/opinion/15/221102/042000211/?P=5>（最終閲覧日：2021 年 12 月 3 日）

Brunei Nationality Act. 1961.

ウシと暮らす

山　本　始　乃 *

ウシとの縁

記憶にある頃から筆者の身近にはウシがいた．家の周りには多くの酪農家が生活をしており，実家では肉牛用のウシを飼養していたこともある．小さい頃，友だちと外で遊んだり散歩に行ったりするとき，行き先には必ず

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科